

父なる神、その愛と真実

(ヨハネ三・一六・五) 博神学生

今日は「父の日」。しかし「父の日」は「母の日」に比べるとどうも分が悪いと感じるのは私だけではないだろう。ある調査によると、父の日にプレゼントを贈る人は五七パーセントと母の日の八三パーセントに大きく水をあけられている。また歴史的にも父の日は「母の日があるのだから、父の日も」という嘆願から始まったという経緯のせいか、どうも影が薄いのだ。とはいえ父へ贈るプレゼントの予算額は母へのそれとほぼ同額と言われているから、「まあよし」と言うところか。

閑話休題。今朝はこのぶ厚い聖書の中のとった一節に注目してみたい。ヨハネ三・一六である。この箇所は別名「小聖書」とも呼ばれており、「キリスト教とは何か」を理解するのに最適なテキストの一つだ。以下ここから三つのことをお伝えしたい。

一、神が世を愛されたという事実

日本語や英語の聖書では「神」の愛の対象は「世(コスモス)」であるが、中国語訳では「人」を補い「神愛世人」と訳す。もちろん神の愛の対象は世界

全体に及んでいるというのは事実である。しかし人間はほかの被造物とは異なるというのが聖書の一貫した理解である。何が違うのか。それは人間が「神のかたち」に造られ、この自然界を管理するために造られたということである(参:創一・二六)

しかし聖書はその後すぐに人間の墮落の事実を教え、その後の人間の世界には今日にいたるまでまさに罪が満ち溢れているのを見るのである。先日も「不寛容社会」なるテレビ番組がやっていたが、罪を犯した人間同士がさばきあい、支配と抑圧の中に追い込まれている人がなんと多いことだろう。また自分自身をも愛せず、苦しみの果てに自死する人も多い。しかし神はそのような人間を確かにある事実をもって「愛した」のだ。

二、ひとり子を与える行動する愛

私たちはよく愛を感情だと考えるが、聖書の示す愛はむしろ行動原理だ。愛は必ず何らかの形で表されるのだ。では神の世の人々への愛はどのような形で表されたのだろうか。その答えは「そのひとり子を与えた」にある。「御子」とか「イエス」と書かずに「ひとり子(ギ:モノゲーンネース)」と書いてあるところに注目すべきである。一人っ子ということとはスベアが無いことを意味する。父なる神はご自身がこよなく愛し、万物を支配する権威を与えたたったひとりの御子を私たちが愛するがゆえに与えてく

ださったのである。かけがえの無いものを与える。確かにそれは最上の愛の表現なのだ。

三、信じる者に与えられる永遠のいのち

神の私たちへの愛は目的を持っていて。それがよく解るのが「それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。」である。

聖書の証言によれば人間は死後、「滅びる」か(これは肉体の領域を超えた、非常に恐ろしい結果だが)、「永遠の命を持つ」かのどちらかになる。つまり中間はない。東アジアに生きる私たちは儒教的文化的背景を持つから「中庸をもって最上となす」が思わず知らず身についている。しかしこの地上を超えた永遠に関わる問題に関しては「中立」はない。これを厳しいと言ってはならない。むしろそこに神の真実があると考えるべきだ。「永遠の命」の価値についてイエスはよく教えているのだが(参:マタ一三・四四〜四六)、どのようにしたらそれを自分のものにするのだろうか。資質か、努力か、血統か、はたまた金か。どれも違う。答えは一つ、信仰である。父なる神の真実な愛、スベアの無いイエスを与える愛を信じそれを受け取りさえすれば、人は誰でも、その瞬間から永遠のいのちを持つことが出来るのだ。

* * *

あるところに美術品収集を趣味にする金持ちがいた。彼には一人息子があつたが、戦争に取られ、仲間を助けようとして敵弾に倒れ戦場の露と消えた。彼によつて救われたかの戦友は素人画家であり、復員後一念発起して戦友の肖像を描き、それを父親に手渡した。愛する我が子を思い、父は泣いた。そして彼はなんと自らの著名なコレクションにこの素人画家の絵を加えたのだつた。それから幾星霜。この父が亡くなり、彼の遺書に基づきオークションが開催された。その一番目の品は、何とかの素人画家による愛息の肖像画だつた。ため息と失望、そしてざわめきが交差する場内。目利きたちが顔を見合わせ、首を横にふる中、おぼえずと一本の手が上がつた。それは父の家で働いていた雇人だつた。競る者はなく、ハンマーとともにオークションは終了した。その瞬間「本日のオークションは終了しました」というアナウンスが。一同が騒然とする中、次のアナウンスが響き渡る。なんと父親の遺言には息子の肖像を落札するものに、ほかのすべてのコレクションは贈与されるといふ一文があつたというのだ。

父の愛は素晴らしいが天の父の愛はそれに勝つて素晴らしい。御子を愛する父なる神は愛するひとり子を与えるほどに我々を愛しておられる。そしてその愛を、イエスを受け取りさえすれば御国の相続はその瞬間、全部あなたのものになる。今、イエスを信じ、永遠のいのちの喜びにあずかるうではないか。